

## 図書館利用者と春日町図書館長との懇談会

- 1 日時 平成 30 年 10 月 28 日（日） 14 時～15 時 30 分
- 2 場所 春日町図書館 2 階 会議室
- 3 参加者 利用者 10 名  
図書館 3 名  
(春日町図書館長、館長代理、副業務責任者)
- 4 テーマ 「私が期待する春日町図書館のサービスとは」
- 5 配付資料 (1) 教育要覧（図書館の所蔵資料数、利用状況）  
(2) 主な春日町図書館事業 29～30 年度  
(3) 春日町通信（11 月号）
- 5 次第 (1) 春日町図書館長挨拶  
(2) 図書館職員紹介  
(3) 図書館概要説明  
(4) 懇談  
(5) 春日町図書館図書長挨拶

### 図書館利用者と春日町図書館長との懇談会 会議録

#### 1 春日町図書館長挨拶

皆様こんにちは。本日はお忙しいところをお集まりいただき、誠にありがとうございます。ただいまより「利用者と春日町図書館長との懇談会」を始めさせていただきます。どうぞ宜しくお願いいたします。まず配布資料の確認をします。次第を含みます 3 枚つづりの資料、「平成30年度版 練馬区教育要覧抜粋の図書館の所蔵資料数、利用状況」こちら A4 サイズが 2 枚と、春日町通信の11月号、今回の懇談会についてのアンケートです。こちら、ぜひご協力いただければと思います。以上 5 点となりますが、そろっていない資料はありますでしょうか。それでは、次第に沿って進めさせていただきます。

では、私から、一言ご挨拶をさせていただきます。春日町図書館の館長を務めております、田村と申します。昨年度は、利用者の皆様を始め、ボランティアの皆様、地域の皆様

に支えていただきながら、より一層地域に根差した図書館を目指し取り組んでまいりました。それに伴い、より多くの方に、気持ちよくご利用いただけるような図書館をつくっていきたいと思っていますが、力不足で行き届かないこともあります。また、利用者の皆さまが図書館に求めるものがそれぞれ違い、ご要望の調整が難しいことなどもあります。そういったことについても、皆様のご意見を参考にして、春日町図書館を改善していきたいと思います。直接ご意見を伺える今回のような機会は少ないので、ぜひ、和やかな雰囲気ですべてのお話が伺えたらと考えております。なお、今回の懇談会ですが、お時間を15時半までとさせていただき、「私が期待する、春日町図書館のサービスとは」というテーマで進めさせていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。また、館独自で答えられないような、例えば図書館システムに関わることや区立図書館全体に関することについては、お答えできない場合があります。その際は、光が丘図書館にその内容を伝え、後日、光が丘図書館と調整のうえホームページで回答させていただく予定です。

また、今回の内容については、質疑等の記録を残して、ホームページ等に掲載するため、録音をとっています。あわせてご了解ください。

## 2 図書館職員紹介

館長代理、副業務責任者

## 3 図書館概要説明

### (1) 教育要覧抜粋の図書館の所蔵資料数、利用状況の紹介

所蔵資料数、利用状況等

個人貸出点数 約48万7千点、個人貸出予約点数 約12万5千点

対面朗読の利用時間数 604時間 会議室の利用件数 351件

ギャラリー利用日数 70日

### (2) 29年度から30年度の主な春日町図書館事業について

- ・ 夜間開館を活かした事業
- ・ 地域、他館との連携事業
- ・ 練馬区との連携事業
- ・ 各種講座、読書支援事業
- ・ ボランティアとの連携事業

- ・その他子供向け事業
- ・情報発信
- ・学校支援モデル事業

#### 4 懇談会

**利用者** 昨年、日比谷のシンポジウムで話題になったソーシャルイノベーションをこの図書館でもぜひ実行してくださいねと言いました。ソーシャルイノベーション、要するに社会をより良くしていくための図書館の在り方に対して新しいプログラムを考えたか、あるいは実行してきたか、館長から説明を伺いたいと思います。

**図書館** 私も昨年シンポジウムに参加させていただきました。ソーシャルイノベーションについて図書館としてどういう取り組みができるかなどのお話が色々あったのですが、まずは地域の方々と関わって社会を盛り上げていくというのが図書館としてもできることかなと思いました。図書館だけで何か事業をしてそれで社会貢献というよりは、利用者さんも含め地域の方々と図書館全体を盛り上げていくことがソーシャルイノベーションにつながっていくのではないかと。まだ具体的な取り組みは検討中ですが、春日町の商店街・町会の人たちと盛り上げていく、商店街の方々と事業を考える、そういったことで社会貢献ができたかと考えています。町会の方や商店街の会長さんとお話を詰めていくなど、いろんな方とお会いして少しずつですけれども春日町図書館と地域が関わるような取り組みを具体的な方向で進めていきたいと思っています。

**利用者** 昨年も同じように議論したと思うのですが、どうしても日本人全体が社会教育を享受するということに非常に消極的であったり、それに対して期待を持っていないとか、そういうことが非常にはっきりしていると思うんですね。選挙に対する関心が非常に薄い。先進国の中で最も低いんじゃないかと思う。例えば昨年行われた区長選挙なんて投票率そのものが31パーセントで、その中の得票は50何パーセント。区長が、選挙人というか投票できる人の得票率は20パーセント切っているわけですよね。そういう中で我々はすべ

ての行政の信任をしてしまうわけ。陰ではぐちぐち言うかもしれないけれど直接的にものを言うってことに対する恥じらいというのか、奥ゆかしさというのか。そういうことに対して図書館が旗振り役としてもっと意識を持つべき。そういうことに対するインセンティブを働かせる。公民館もちろんその役割をしているわけです。今現在の生涯学習センター、それからこの図書館というのが、パブリックコメント、あるいはそういうものを引っ張っていく大きな役割を果たさなくちゃいけない施設ですよ。その意識を図書館も我々区民もしっかり持たなくちゃいけない。今やっぺらっしやる事業それぞれもそういうことに関係しています、もちろん。いっぱいそういうのがあるとしますね。世界的な図書館利用の中で一番欠けていると思うのは、ブッククラブ。何かテーマを決めて、ある情報、ある図書に対して話し合いの場を持つとか。そういうところから広がっていく。直接的に区に対して、区長に対して、あるいは都に対して、国に対してもあってもいいんですけど、そういうものをみんなで話し合って、この図書館を主体にして発信していくような場になったらいいな。ソーシャルイノベーションというのはそういう視点であるべきじゃないかな。アメリカ、ヨーロッパも図書館の利用が庶民の日常。練馬73万人の都市で12か所の図書館。私の家からここは2キロちょっとです。デンマークなんか500メートルくらいのところにあるんです。本当に身近な、自分の家の書斎として図書館があるという感覚が、先進国の普通の感覚。子どもの時から図書館とつながっていくような。だから読解力というものが非常に進む。日本は非常に読解力が弱い。普通の国民の6割方は読解力が非常に低い。最近の調査で小学生も中学生も大学生も読解力が非常に弱いという結果が出ている本をついこの間ここで読んだところ。普通の人はほとんど意識していない。だからこそパブリックコメントが低くなってしまう。今日から始まる臨時国会も聞いていれば、今の日本あるいは世界が非常に大切にしなくちゃいけない情報についての議論じゃなくて、身の回りの足の引っ張り合いみたいなことばかり議論の対象にしてしまう。子どもの時から情報に対する関心の深さ、情報の分析、評価、自分の意見をどうやって組み立てるか、自分の考え方をどうやって作っていくか、そういう視点が日本は非常に弱い。やっぱりこれは明治からの図書館の役割がいわゆるただの貸

本屋に徹していた結果だと思うんですね。そうじゃない在り方は欧米を倣うということが前提ですけれども、文化、教養、そういうものに対するどんな中心地・発信地として意識できるような図書館であってほしいと思いますので、館長よろしくお願いします。

## 図書館

図書館も様々な利用者さんがいらっしゃるんですけれども、区民の中で図書館を利用しているという方がどこも大体2割から3割という風に聞いております。色々事業をやってみたり、図書館の方から発信をする努力もしているのですが、今図書館に来ていない人をこれからどういう風に呼び込んでいくかが課題だと思います。人が集まればコミュニティができて、様々な意見交換が行われ、いろんな発信ができる。図書館と利用者の方、地域も全部巻き込んで、一つの大きなコミュニティとして存在できるかなと思っています。そのとっかかりとして、様々なイベントを企画しています。今まで図書館に来ていない人が来てみたら結構楽しいじゃないかと思っていただけるように、敷居をものすごく低くしてウェルカムな状態にしていこうと考えています。図書館って堅苦しくてちょっと居づらいなという雰囲気を出してしまうと、来る人も来ないと思いますので。図書館楽しいよ、こんなに楽しかったんだと思わせたら、リピーターになっていただけるでしょうし、雰囲気作りやイベントなどを通して、まずは来たことのない人を呼び込む。そしてカードを作っていただいて、本を借りていただいて、そこからコミュニティの輪が広がっていくように図書館も努力していかなければいけないと思います。毎年懇談会に参加していただき、勉強になるお言葉をいただいています。とても図書館像としては理想的だなと思っています。現状、利用者懇談会のようなものを開いたとしても、集まっていただけののが主に図書館と関わっていただいているボランティアさん、地域の施設の方になっています。懇談会に人が押し寄せる図書館だと、ソーシャルイノベーションにも直結するのではないかと思います。そのようにするにはどうしたらいいのか日々考えています。みんなが地域の図書館を大好きになって、自分たちが居心地のいい図書館をつくっていくという意識が高められるにはどうしたらいいのか。こうした方がいいのではないかという考えがあれば、この場ででも言っていただけるとすごく助かります。

**利用者** おっしゃる通りだと思いますし、私が言っていることもそんなに的外れじゃないと思っているんですけども、学校で教え込まれる教育に日本はあまりにも強く行き過ぎちゃった。だから読解力がほとんどついていない子でも、大学生になっちゃっているんですね。世界的な調査をすると日本人は平均的にみんな文字を読める国民だし、大学進学率が世界一に近い、50パーセントを超えているわけですね。52から53パーセント。大学行く人間がですよ。世界的に言ったらトップクラスもいいところです。だけど、行った中での中身っていうのかね、「お前本当に大学出ているのか」と言われるくらいの低さでしかない。ただ知識があるっていうのではなくて自分の考えをどういう風に作っているのか、あなたの信条は何ですか、宗教の問題もあるけれども、情報っていうものに対するアプローチの仕方、そして評価の仕方、それを組み立てた自分の考え方をまとめていく力。図書館を中心にした学校教育が日本はほとんど無かった。今もほとんど教育そのものの実態は、そっちに向いていないと思うんですよね。図書館が中心になって情報を取ったり分析したり、評価したりする力を事業とどうやって組み合わせていくかということがしっかりできなければいけない。だからここでやってらっしゃる8校に対する学校図書館支援に対してもものすごく私は期待をし、大切なことだと思う。それに対して、私がさっき申し上げた学校図書館ボランティア育成プログラム作りシリーズを活用していただければ。活用というのはそれを使えという意味じゃなくて、たたき台にして議論をし合う場を作れたらいいなと、そういう意味です。お知らせと募集要項みたいなものを持って来ていますので、スタートラインにできたら。図書館が音頭を取ってくればなあって、期待をしたいと思うんですけれども。これを回していただいて。

**図書館** すみません、のちほど私が資料をお預かりいたしますので、この場では。

**利用者** はい、そうしましょう。

**利用者** ハードルを低くしていろんな区民の方を、というのは私も全く同感です。私のいるリサイクルセンターとは社会教育の施設で、まさしく環境教育です。環境やリサイクルに関する、理解や知識を区民の皆様に深めていただくために色々なプログラムを用意している施設です。社会教育の施設、文化を育む拠点として、図書館さんは今ハードルを低くしていろいろやってらっしゃる

けども、悩ましいところも限界もあることをおっしゃっていたんですが、似たようなことを私もまた違った視点から感じておりました。ここに来る前港区で環境系の施設で館長をやっておられて、その時も同じようなことを感じていたのですが、この解決のためにやっていたのがネットワークです。図書館さんとしてのネットワークには限界がある。私たちは私たちが限界があるんですが、図書館さんや生涯学習センターさん、公民館さん、青少年センターさん、そして私たちのような環境教育の施設、その他にも男女参画とか働き方改革を考えているような社会拠点の施設も公的なものもありますし、もっと言うと、私共だと企業のCSR部門ですとか、環境をやっているNPOさんとのネットワークを持っているんですね。そうすると図書館では持っていないけれども環境施設ならではの持っている企業やNPOさんとのネットワーク。私たちは持っていないけれども図書館さんがお持ちのネットワーク。それが公的施設だけではなくて民間企業であったり、大学であったり。例えば私共も大学の理工系の科学系ですと環境に近いので、そういったところとはネットワークを持っていたり、図書館さんですと文科系の学部が充実したところをお持ちであったりするので、そういうものを持ち寄ってくるとどんどん広がっていくかと思うんですね。私は企業さんと色々やり取りをして環境系のプログラムにご協力を頂いているんですが、企業さんのCSR部門ですともっともっと一般の区民の方々とつながりたいというご要望をものすごく持っていらっしゃるんですよ。例えばこういう懇談会にお招きすると喜んで来る企業のCSRの部門の方って多いと思うんですね。なので、そういう風に広げていくためにはいろんな分野の公共施設の、私のような立場の人とか、ボランティアさんとかNPOさんで活躍している方々のお知り合いで、区内に限らず区外の方でも練馬区のために何かしたいと思っていらっしゃる方もいるので、そういったところまで広げて行って、練馬のために何かをする。立場がこういった公共施設の職員さんもいれば、区民もいれば、企業もいれば、大学もいれば、というような混成の部隊ですね。あとは例えば私だと国立環境研究所さんとなつながつて色々やったりするんですが、国立環境研究所さんもうこういった区の図書館で何かができるとなると非常に喜ばれると思うんですね。そういったつながりを徐々に徐々にアメンバーのように

広げていけたら、いろんな可能性が見えてくるのでは、という風には一つ思います。あとは若者なんですが、文化拠点、今先ほど大学生がちょっと嘆かわしいという状況をお話していましたが、日本の問題の一つとして、子供の頃こういった公共施設に通ったり、本を読んだり、環境の勉強に来たりしている子たちが、来なくなる。それで、また大人になると来るようになるんですが、やっぱりそこに一つ日本の受験事情があるかと思うんですね。中学高校大学になるとばたんと来なくなっちゃうというのはきっとどこでも皆さん同じような悩みを抱えていらっしゃるんじゃないかと思うんですが、その解決として学生さんの思考能力を鍛えたり、こういったところに呼び込むための一つとして、こちらでやってらっしゃるビブリオバトルが非常にいいなと思っているんです。たぶんそういったこともお考えでやってらっしゃるんじゃないかと思うんですが。観覧者が少ないというお話があったんですが、何か観覧者を増やす工夫をしてビブリオバトルを大きくしていくと高校生や大学生、若い人達を呼び戻して、私たちとつながる接点づくりの拡大のためのチャンスに使えるんじゃないかという風にちょっと感じました。

**図書館** 図書館の事業も色々なところと連携して開催させていただいています。図書館だからこことじゃないといけないというよりは、色々なところとネットワークでつながって、そこから図書館の概念を壊すじゃないですけど、そうしていかないとイメージの中で図書館ってこんなものだってその場に収まってしまうと思うので、いろんなことをやってみるのも一歩かなと思います。ありがとうございます。

**利用者** やってみる前にいろんな立場の方が集まってディスカッションをするとすごく面白いんですよね。同質の人たちばかりじゃなく、異質な立場の人が集まって話し合うと意外な面白い話がでたり、既成概念の価値観が壊されるので、楽しくて面白いアイデアが出てくるんじゃないかと思います。

**図書館** 図書館の同業者の人とばかり話をするとか「図書館だから」とか「こうだよ」とそれ以上一步踏み出せないと思うんですけども、こうやって他の方と関わるとこんな考えもあったのかと勉強になります。そういう機会もどんどん増やしていきたいと思います。ありがとうございました。

**利用者** その話の全国版が、横浜の図書館総合展ですね。シンポジウムの部屋が3日



間でなんと100ぐらいあるんですよ。全国から来る人達、去年ぐらいはそんなに多くなかった。もうすでに連続して20年やっていますね。私は変な行きがかりから5年続けて行っているんですけども、だいたい図書館の職員が多いんですよ。利用者で来ている人ももちろんいますけど、職員が全国から集まって世界の情報をあそこで公開し合いますから、場合によっては外国から来た人が、同時通訳を含めてやってくれますので、図書館について手に取るようにわかる。そして自分たちで欧米に行けば、なおより良くわかる。世界の情報の中心みたいなところをできるだけ多くの人が自分の体で受け止めて、それを地元でどうやって活かすか。本当にもったいない話だと思うんですけども、なかなか練馬から出て行く人が少ない。日比谷のシンポジウムもそうですけれどね。金曜日に日比谷で、3年連続のテーマで行われる。同じグループが同じテーマでやっていくのは、横浜ではあまりない。ゼロじゃないけど。日本の図書館の大先生はみんなあそこへ今週集まるわけ。こういうところっていうのは、日本図書館協会ですらそれだけの集める力ないですからね。本当に貴重な図書館に対する情報源として、必要だと思いますね。活用したいと思います。

**図書館**      図書館総合展は毎年10月から11月にかけて行われています。最近は私も参加できておりませんが、今の図書館が分かるイベントになっていまして、広い会場に色々なブース・セミナーがあって、行くと楽しいイベント会場です。ありがとうございます。

**利用者**      今おっしゃったことって、本当に理想の図書館です。問題は、文科省だと思うんです。日本の国民に対して、「どういう図書館行政を」ってまったく考えていない人たちだと思うし、それを東京都は下に丸投げしているから、こういう状態はなかなか区の図書館レベルで何かしようというのはとても難しいと思うんです。だからといってやめてはいけないんだけど、特に田村館長になってからは、私はすごく一生懸命やっているなど。手に取るようにわかっています。この間NHKスペシャルを見ていたら、健康長寿、スポーツよりも食事よりも読書が大事っていうので私すごくびっくりしたんですけど。脳にいろんな刺激があったり、図書館に行くという行為、乗り物を使って図書館に行き、そこで誰かと会うことでまた刺激を受ける。ネットでちゃちゃ

っと情報を見るのではなく、図書館に行って、実際に手に取って、ページをめくって何かをするってとても良いということが初めてわかったということで、とてもびっくりした番組でした。その中で東大の先生は病院を作るにはすごくお金がかかるけど、図書館を作ればいいと。小中学校に学校図書の司書を全校配置する。それは病院を作るよりもお金がかからない。小中学校の時から図書に親しんできた、どうやって本を自分の生活に取り入れればいいのかっていうのをちゃんと身に着けてきた子たちが、大人になってもネットやテレビの情報よりも自分が探して図書からの情報を得るということにずっと続いていくんだという話で、私はぜひ区長にこれを言いたいと思って聞いていたんですけれども。子どもの頃にどう図書と関わったかその後の活動につながるっていうのは、私も子どもと本の活動をやっていると思うんですね。中学高校になると来なくなるのは、学校が忙しすぎて来られないというのもあると思うのですが、それでもやっぱり子供の頃に本が良かったなと思った子は本から離れないと私は思うんです。小学校で「何冊読んだ」とか冊数だけを競うとか、表面づらで本をよく読む子みたいな子が本を上手に活用する方法や本の良さをちゃんと知らないまま大きくなってしまうと、本から離れるんじゃないかと思うんですね。大事なのは、子供の頃に本当にいい本、見た目が派手で面白いテレビの延長みたいな本じゃなくて、本にしかない良さがちゃんと手に取ってわかるような本を図書館に置いて、ただ置いてあるから利用しなさいじゃなくて、「こんな風にいいものがあって、こんな風に読むと心がなんとなく落ち着くね」とか「楽しい気持ちになるね」とかそういうことを言葉で子供に伝えていける人が必要というのはすごく思うんです。職員さんいつもすごく忙しそうにしていらして、その中でも一生懸命やっていたらしゃるのもわかるんだけど、そこにもう少し力をいれていただくことができたならあという風にはいつも思っています。それから、授乳室というのはやっぱりないんですよ。空いているところをご案内している感じですか。

## 図書館

授乳室を作るとなったら増築みたいになるんですけれども、現状なかなか難しいので、対面朗読室や会議室のＡＶ機器室、スタッフが休憩で使っている部屋を一時的に授乳室という形でご利用いただいているんですが、すべて埋まってしまうとやはりお断りになってしまうんですよ。でも、今世

間一般的に授乳室というのは、新しく建物を作るとしたら必ず作らなくちゃいけないですし、その辺もちょっと考えなくてはいけないですね。

**利用者**      例えばそのロビーが広いので、一面を何か工事を入れて授乳室兼おむつ替えコーナーみたいなものができたらなと私ちょっと考えたんです。それと、人が集まって色々情報発信するのもとっても素晴らしいことなんだけど、お母さんたちと接すると誰かとコミュニケーションを取るのがとても難しい人たちもいるんですね。中高生も一人で何かじっくりやりたい人の受入場所というのも図書館の大事な一つの役目だと思っていて、ここは自習室が無いんだけど、どんな感じで今、夕方の中高生の居場所があるのか教えていただきたいです。

**図書館**      図書館の閲覧席というのは基本的に館内にある本を読んでもらうか、それを用いての勉強という形で、自分たちの参考書を持ってきて勉強はしないでくださいという風にはなっているんですけども、ここにはラウンジがあるので、中高生や学校が終わった小学生もそこに集まっています。夕方に公園などにいるよりは、図書館のラウンジで過ごした方が職員が目もありますし、安全だと思います。

**利用者**      集まっているというのは、そこで勉強や本を読んでいるわけじゃなくて遊んでいるのですか。

**図書館**      書架で本を読んだり勉強している子もいますけど、ラウンジでは飲食もできるので、食べたり飲んだりしながら友達と話している子もいます。夕方以降は、中高生の子も意外と多いです。

**利用者**      それとこの懇談会の在り方というのがそもそも、まあこれは光が丘で言わなきゃいけないことなのかなと思いますが、普段本しか借りない人もここに来られるような雰囲気づくり、誘導の仕方が必要だと思います。例えば本を貸出した時に「今日懇談会あります、見に来ててください」という小さいチラシを一緒に配るとか。この懇談会って毎年あるけど何をやっているの、出たら発言を求められそうで怖いって思っている方も結構いて。議事録みたいなものを区のホームページとかに載せて、こんなこと話しました、それに対してこんな対策が取れました、こんなことで提案があったら募集していますとか、そういうページがあったらこんなこと言っているんだ、じゃ

あちょっと提案したいから行ってみようとか、もっと身近に区民の方が感じられるんじゃないかなあという風に思います。

図書館 懇談会の議事録はホームページからご覧になれます。

利用者 議事録作ってないですよ。探したんですけど、出てきませんでした。作っていないとか作らないという話だけど。

図書館 いえ、公開しています。今回も作成します。

利用者 昨年分見てきました。すごく簡単ですけども、どういう質問が出たかということと、館側がどう答えたかが書いてありました。

利用者 どこに書いてありましたか。

利用者 図書館ホームページの中から、私は館長懇談会と検索したら出てきました。

利用者 ああ、そうですか。

利用者 部分的ですか。

利用者 部分的というか、全体に細かいところまでは載っていないですけども、こういう質問が出て、それに対して館側がこのように対処しましたとか、今検討中ですかという程度の事ですけども、ざっくりと。

利用者 各館ごとではないんですか。

利用者 各館です。すべての館の。

利用者 私、見つけられなかったです。すみませんでした。

図書館 詳しい議事録も今後載せていく予定ですので。

利用者 去年の館長懇談会の時に光が丘の館長に議事録をきちんと作ってくださいという要望が出たんです。そうしたら、何年か前からそのまま載せない形で作っていますと答えていました。要するに部分的な簡単に答えられるものとかそういうものだけになっているんだと思うんですが。

利用者 ものすごく簡単なものですけども、一文ずつみたいな質問と回答にはなっていますけど、一応全館分が載せてありました。内容がそれで十分かどうかは、それぞれの方の感じ方だと思いますけども、今日は私はじめての参加だったので、昨年どんな感じだったかな、調べたらわかるかなと思って見えました。ざっくりとくらいは何となくつかめました。

利用者 あともう一つ、私、春日町児童館で赤ちゃん向けのお話会をやっているんですけど、そこで春日町図書館からおすすめの本を10冊か15冊借りてきていた

だいて会場に置いているんですね。春日町図書館で借りてきたものを展示しているのそこで貸出はしていないのですが、手に取ったお母さんたちに「これと同じものが春日町図書館にありますから、行ってみて下さいね」と言って図書館に行っていただくようにしています。そういうのを他のところでもやってみると、「図書館はどこですか」からまず始まって、「貸出カード作ったら10冊借りられますよ」なんて言うと、じゃあ行こうかなっていう人もいます。地道に広げるっていうのも一つの手かなと思います。

#### 利用者

いろんな意見が出て、いろんなところとつながったり、そういうこととても大事なことだと思います。それも大事なんですけれども、図書館だからこそできるものをすごく大事にしていってほしいです。いろんな事業をやるのはもちろん大切なんですけれども、例えば蔵書構成やレファレンスがきちんとできていなければ、図書館に来て相談したんだけど全然回答が無かった、とかそういうことになっちゃうとどんどん使わなくなってしまいます。やっぱりそこに来た子どもたちにきちんとレファレンスや本の紹介ができることが、まず図書館には一番。一番で、それを今度は先ほど話したようにいろんな企業の人たちからアドバイスとかそういうものをもらいながら、図書館は図書館に活かせるもの、例えばリサイクルセンターでしたら図書館とのつながりで環境の本とか色々用意してもらったり、紹介してもらったりしながらいくっていう形になっていくのがいいんだろうなと思うんです。だからやっぱり、図書館としてはレファレンスに力を入れてほしいなと。相談をした時に、いろんな情報が返ってくるということがとても大事だと思っています。学校図書館も今練馬区には一応人が入っていますが、指定管理館から派遣される人、業務委託の人、そういう人たちが入っているもので、会社が違ったり、いっぱい支援したいという気持ちはあったとしてもなかなか週2日の出勤であってできなかったり、問題がたくさんあると思うんです。図書館として「本当はここまで支援したいんだ」とか「こういうことができるんですよ」ということをきちんと区の方に、区の方に提案できないですよね。指定管理とかっていう形でね。たぶん難しいことがいっぱいあるんだなあと思いながら、そういうことがクリアされて、子どもが図書館に来た時に「ここに来るといろんな事が得られるんだ」と感じられる図書館になることを望みま

す。イベントも図書館ならではのイベントをやってほしいなど。本当はリサイクルセンター、青少年館、児童館等でやった方がいいようなイベントはそちらにお任せして、図書館は図書館ならではのイベントがほしいなと思います。それと、私たち色々本の事とかやっているんですけども、図書館の会議室が各館1つくらいしかありませんよね。そうすると、ここで例えばいろんな講演会をしたいとき会場を取るのがとても大変なんです。図書館の本を使っただけの学習会であれば、図書館をお借りしてやりたい。例えば公民館や児童館でやるとすれば本を運ぶのが大変なので、図書館でやりたいなあと思っても、なかなか図書館の会場が少なくて取れないので、図書館の少ない施設を本当に図書館ならではのというか本を中心にした学習会やイベントに使えるようになるといいなあと思います。

**図書館** 敷居を低くし、色々なことをやって人を取り込むことと図書館本来のレファレンスや蔵書構築、両方にマンパワーが必要ですし、なかなか難しいところで。ただ、子どもにいい本を選んであげる、そういう本を選書で入れるというのも私たちの大切な仕事です。来てくれた子どもたちにしっかりしたレファレンスができる職員になっていないと、本来の図書館とは違うものになってしまうので、そこはきちんと押さえてやっていきたいと思います。レファレンスや蔵書の構築等、図書館業務に関わる研修には職員もできる限り参加しておりますので、職員の底上げを図って、皆様の様々な期待に応えられるような図書館にしていかなければいけないと改めて思いました。

**利用者** お話を聞いて、ちょっと立場が同じなので、すごく思うところがあるんですが、今のお話本当その通りなんですね。図書館においてもうちにおいても同じで、それぞれ目的をもってつくられた施設なので、図書、私たちはリサイクル、まずはなにをさておいてもそれをきちんとしなくてはいけないと、おっしゃる通りなんですね。私たちこの公共施設の館長として、まずはこの本来の機能を、ということに加えてもう一つミッションとして区から言われているのが、「広く区民のどなたでも受け入れてください」ということなんです。図書館の本を借りるのが目的ではないお子さんたちが来てラウンジで食べたりしているということとまったく同じことがうちでもあるんですが、ここは本来そういう目的じゃないのよとは言えないんですね。そういった子

たちを受け入れて避難場所じゃないけれども、誰でも受け入れていく。そういう人たちにとって居心地がいいということもやらなくてはいけない。あと、いろんな意味で地域連携をしていかななくてはいけない。本来の図書館のミッションと若干ずれていても地域連携という形の中で協力をしていかなくちゃいけないこともたくさんおありだと思うので、図書館は本来どうあるべきかということを柱にその周辺のものでたぶんすごくご苦労されているなど、ちょっと身につまされちゃったんですけれども。ただ、おっしゃる通りです。本来のところを本当にきちんと立てていかなければいけないというのは、私も今聞いて改めてああそうだな、私もそうだとちょっと思ったところです。

#### 利用者

いっぱいイベントがあって、図書館の人たちがこの人数でこれだけのことをやるということはすごく大変だろうなと。ブックスタートで関わっていて感じるのは、土曜日なんかだと本当に人が少ないですよ。少ない人数でやっている、やっぱりサービスも低下しますよね。いろんな事がなかなかできず。ここは指定管理なので別なんですけど、直営館も官庁型になりまして、土日祭日職員はいなくなるんです。そうすると、そこでいろんな事があるとなかなか長に伝えられない。例えば、ここの指定管理館もそういう時に本来は光が丘の館長に即判断してもらいたいことがあったとしても答えが返ってこなければ、そこで非常に悩んでいてすぐ回答は出せないとか。しかも少ない人数でという形になっているので本当に大変だろうなと思うんです。そういうところを区民の立場からどうやったら改善されていくのかなと考えたり。本当に一生懸命みなさんやっていて、大変だろうなと。ブックスタートに来るたび今日2人しかいない、とか。お客さんを待たせたくないのね。カード作ったりするのに時間がかかるので。そういうものをね、図書館のすべてのところが良くなっていく方法を考えられればいいのかあなんて思うのですが。

#### 図書館

こちらの事情もよくわかっていただき、ありがとうございます。本当にそうなんです。昔はイベントもお話会くらいの時がありましたが、最近ではそれ以外のイベントもたくさん実施しています。練馬区は12館あるうち5社の会社が入っており、切磋琢磨しながら様々な企画をしているのですが、私たち職員の数にも限りがありますし、どうしていいかというのが悩みでも

あります。こうやってボランティアさんや地域の方々に支えていただいているので、より良い図書館を作っていこうという考えは常に持っております。こういう懇談会の場でなくてもその都度気づいたことでも、何でも気軽に申しやっただいただければ、私たちもとても参考になりますので、これからもよろしくお願いいたします。

## 利用者

利用者としたら例えば自分が欲しいと思っていた本に出会えたとか、自分が懇談の場で言ったことが実施されたとか、自分発信のものが返ってくことで次の段階にレベルアップできることもあると思うんですね。例えば私たちの団体が去年、一階の「当日のホール利用団体」っていうところに当日の講座のチラシを貼っていただいたんですけれども、それが分かりやすかったと参加者から返事をいただいたんです。それ以降、他の企画のものも貼ってあったりしますよね。館の方がちゃんと受け止めてくれて実施してくれていることで、またその方たちは「次はこういう風に改善してもらおう」とか、そういう意欲もあるんじゃないかと思うんです。あとこの前、中学生ですか、薬袋の形で本を紹介したものが学校支援の展示としてありましたよね。府中の市立中央図書館で、職員の方が利用者の方のニーズとかを集めて発信していく企画を作ろうということで、例えば2か月間あなたの借りた本はどんな本でしたかとか、心に効く100冊おすすめしますみたいなネーミングで本の処方箋という企画をしたらいいんです。利用者の方にどんな気分の人向けかアンケートして、4つの効能別に「楽しい気持ちになりたいあなたへの本」とか「泣いてスッキリしたいあなた」、「モチベーションを上げたいあなた」、「びっくりしたいあなた」という風にして100冊ぐらい選び、中身が分からないように新聞紙で1冊ずつくるんで項目ごとに並べ、借りてもらうという企画でした。いろんな企画は館の方の発信であることが多いと思うんですけれども、あえて利用者と利用者をつなぐことも面白いのかなと。またお仕事が増えて大変になると思うんですけれども、そうやって提案を実行に移してそれで利用者が、もうちょっとうるさいことを発信してみようって育っていくことも、教育機関ではないですが人間教育というんですかね、そういうやり方もあるのかなと思いました。それと、もう一つ自転車置き場のことなんですけれども、床に車輪のガイドがありますよね。あれがどうも使いにくいという



方が何人かしまして、限られたスペースで自転車を効率よくってということもあると思うんですけど、他の方からも使いにくいという声はあるんですか。

**図書館**

駐輪場が使いづらいという声は色々と頂いておりまして、区長への手紙ですとか上の方にもいっているんで、光が丘図書館も把握しています。イベントの日や土日、夏休み期間中などの混雑する時期には職員を配置して出し入れを手伝ったり、満車の時は満車の札を出してこれ以上入らないでくださいという周知をしています。根本的に駐輪場を全部変えて違う形にするというのはなかなかできないんです。実際に駐輪場から自転車を出そうとしてけがをしてしまったというお子さんもいらっしゃったというので、駐輪場の動くスライド式レーンを変えて固定式にするとか、最新式のものにしたらもう少し使いやすくなるのではないかと思いますので、その辺も検討して変えていかなければなりません。もっと前は２段式だったらしいのですが、２段式にすると下段に大きい子ども乗せ自転車を乗せてしまうと上段が全く使えないらしいんです。みんな上段は使いづらいので全員下段に置いて、上の空間が全く無駄だということで撤去してわざわざあのスライド式になったという話を聞いています。駐輪場が使いづらいというのは私たちも認識していますので、改善していくようにします。

**利用者**

いつ頃とりかかるとか、そういう目途はあるんですか。

**図書館**

駐輪場を直すとすれば、業者に見積もりを取り、予算によっては図書館の指定管理費からできないこともあるので、区の予算でということになります。いくらかかるか見積もりを取ることはすぐできます。ただそこから、どこを最優先に直していくかというのがあるんですけども、ここも建ってから20年経過しているので、いろんなところに不具合が出てきており、空調もかなりガタが来てましてそちらですとか、電気系統を直してから駐輪場という風になるかと思うんです。ご意見も多いので、色々取り掛からなければいけないと思っています。

**利用者**

最後にもう一つあります。今のレファレンスの問題で先ほど館長が商店の人たちとの話し合いという話を出されました。例えば今までのレファレンスの概念でいえば、商店の人たちにより良いお店の作り方とかそういう情報としてこういう本がありますというのが一つあったと思うんだけど、そういう

のはもうだいたいコンピューターで引けるようになってきているわけです。今スーパーや大型の店舗が増え、個人の商売は成り立たなくなっている。早い話、アメリカに行けばそれは如実ですね、アメリカの地方の町に行けばもうほとんど個人の店無いんですね。みんなモールや大型店舗あるいは宅配にとって代わられて。そういう時代が変わっていくわけですから、個人商店がどういう風に生き延びるかってこと、これはもう本当に世界中の小売店の問題なんです。練馬だけじゃなくて。それは本当に新しい、ある意味商店のイノベーション。こういうものだけ取り上げたって相当大的なテーマであり、話し合いの先生に来てもらうのもいいですしね。みんなである商店の人たちと一緒に議論し合ってもいいと思うし、そういう仲立ちをしていく、コーディネートをしていく役割が新しい図書館のレファレンスの一つの方法じゃないかと思うんですよね。横浜でやっている会議をずっと聞いていくと、こういう話がいっぱい出てくるんですよ。それは町を良くする、あるいはさっき私が言った個人個人の意見をどうやって作っていくかっていうそういうものも含めて。図書館の役割とは、最終的に司書の役割になるわけです。そういう人たちの幅の広い見識というか経験というかね、これをどうやって活かしていくか。だから行きつくところは町の図書館が町の人たちと一緒に成長していくということ、そういう意味ではぜひ根っこ生やして。どうしても、会社組織になっちゃうと転勤があるでしょ。この問題は直営時代だって同じですよ。委託になっても同じ問題があるので、これは教育長とか区の幹部との話で出すんですけども、地元と図書館が一体になった地域の作り方、地域の在り方、そしてそれがイコール図書館の在り方ということ。そこからまた学校教育の在り方につながるわけですから。社会教育という大きな旗の中での図書館という意識をどうやって作り上げていくか、大きなテーマを抱えて意識してもらいたいと思いますね。

## 5 春日町図書館長挨拶

本日はお忙しい中、ご参加いただきありがとうございます。利用者アンケート結果並びに、本日頂いたご意見を踏まえ、春日町図書館の運営、サービス向上に努めてまいりますのでどうぞ宜しくお願いいたします。